

# 新潟県

# 公民館月報

昭和60年11月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・森林業会館内】

【電話・新潟 (0252) 24-6073】【振替新潟0-4049】

発行人 会長代行 佐藤 眞 武

編集人 事務局員 本田 清

【定価1部 120円 年共・年価 1,440円】



## キクの切花

キクは、本県で、もっとも古くから栽培されている切花である。

栽培面積は一九七五年(昭和五〇年)の統計では、施設面積・加温施設、約八千平方メートル、無加温施設約三万平方メートル、露地面積三〇ヘクタールをしましている。産地は新潟市、豊栄市が古くより発達し、同地方のキク栽培面積のうち施設面積の約九〇パーセント、露地面積で九四パーセントをしましている。近年、長岡市、柏崎市、上越市などの各都市近郊にも産地が育成されはじめている。

キクは夏ギク、秋ギク、寒ギクの系統があり、それぞれの系統にたくさん品種が含まれて、品種の特性も多種多様である。最近、スプレーギクの試作もはじまっている。

切花のキクのほかに、観賞用の鉢植えの大ギクの個人栽培も盛んで、文化の日を中心とする各地の文化祭等で華麗な菊花展が開催される。とくに新潟市白山神社の菊花展、弥彦神社の大菊花展は有名である。

キクは、日本人のもっとも好きな花のひとつに数えられている。

(新潟県百科事典による)

# 佐藤真武氏が新会長に

## 昭和五十九年度歳入歳出決算等承認

九月二十五日、新潟市の平安閣で開催された本年度第二回評議員会で、昭和五十九年度県公連歳入歳出決算が承認され、これまで会長職務代行となっていた佐藤真武氏が会長に選任された。これにともない、会則第六条の「副会長三名」とあるを「副会長三名以内」と改正した。

(写真は佐藤新会長)

### 第二回評議員会

第二回評議員会の影響の推せんについて、(優良公民館)は二十七日、民館職員、前十日町市公民館長田ほか委任扶提出者 村達夫氏、公民館永年勤続職員、四名、まず佐藤会長、安塚町公民館長渡辺真一氏、同十代行があいつ、来日町市中条地区公民館副参事金子實の右坂県社会教育(又中氏)

主事の祝辞のあと、昭和六〇年度施設国庫補助額の長に田中越公連会(内定)と、昭和六一年度国庫補助額を長を提出、議事に入

十一件の報告事項のうち、まずはじめに「公民館職員対象の福利厚生事業としての新しい保険制度の普及について」、担当保険会社の東邦生命保険会社新潟支社から二名の担当者が出席し、新制度発足の経緯、趣意等について説明、協力方の要請があった。その他主要なる報告事項は次のとおり、「第



三十四回公振連大会における被表

ノトップ脚に出張し、後日レポートを提出、同総会席上発表した。「公民館活動調査の実施について」(全公連で、企画、各県公連に委託し、実施す。)

「事務局の移転について」(県林業会館、随の教育関係団体とともに十一月中に二階に移転することとなった。)

助中請願について(別稿)

「北方領土返還要求運動新潟県公民館の事業参加について」(本会事業局長職田伊藤孝子氏が北方領土返還要求運動新潟県公民館に推薦され八月二十七・八日

会において報告承認を求めるときのものが遅延していたので指摘した。

第三十七回県公民館大会開催について、(中越地区公連相)三、柏崎市を会場として開催することになった。日程は二日、公民館職員の特許性をテーマとす

る。

③ 都市公連事務局長会議の開催について。(二月または三月下旬に開催予定。公民館活動調査結果を資料とし、講師を招き指導を依頼)

④ 県公連正会長選任の議題について。(佐藤真武氏代行の「代行」を除去し会長としたらどうかという提言あり、着目交換ありと提言)お承知された。このあと佐藤氏の会長就任のあいさつがあった。

⑤ 会則第六条の改正について(正副会長人事の異動にともない会

則第六条に「副会長三名」とあるのを「副会長三名以内」と改正すること決めた。

(左のカットは「職員対象の新しい保険制度のパンフレット」か)

公振連大会へ三十余名

十一月十八日、東京都紀尾井町の赤坂プリンスホテルで開催される全国公民館振興大会には、本県から市町村長、館長等約三十名が参加することになった。

公民館の皆様へ

## 定期付新医療保険のおすすめ

(ガン、看護、手術特約、医療保険付定期保険、災害割増特約付新定期保険)

## 東邦の一時払養老保険のおすすめ

(←一時払)新養老保険

全国公民館連合会  
東邦生命保険相互会社



# 公民館総合補償制度

公民館の実態に応じ、加入の種類は自由です。中途加入受付中!



夢であつた三種の神器もそれから二十数年を経て夢が夢ではなくなつた。当座誰かが考えもしなかつた事柄が現実となつており

筑波科学万博を舞台に、21世紀のあなたに在りていくのキャンペーンが行われていました。夢地にはO.A. 家庭にはパン



「これからの公民館像」 三 国 マリ子 毎日の生活に活を、そして夢を持ち、生涯学習の場「ミニシアター」の場としての公民館活動を盛り上げる。このときこそ本来の使命が、あつてほしい。

冬になると雪の深い新潟、暴風雪の日が続く佐渡、一日の仕事、学校を終るとテレビ機、敷日曜日と同様、となりまきと、日が一月、一年となり、気分的にもいよいよ冬令化に進入的になり、

二十代のあなたに気ままな独身生活があります。しかし時なれば返り回復に近づきまし

昭和60年度公民館建設費国庫補助内定館

Table with 3 columns: 市町村名, 公民館名, 補助内定額. Lists 津南町, 十日町市, 柏崎市, 燕市, 長岡市, and a total of 163,000.

昭和61年度公民館建築費国庫補助申請館

Table with 6 columns: 市町村名, 公民館名, 構造, 延面積, 工事費見積額. Lists 五泉市, 湯沢町, 柏崎市, 豊浦町, 新津市, and a total of 5 buildings.

色紙(表紙絵)募集

公民館の絵画教室での傑作、利用グループの中で絵をよくなる人の作品を、なるべく多テ位置で書かれたもの。絵の内容は「名勝、旧跡、文化財」などのほか、表紙にふさわしいものであればなんでも結構です。説明文は四百字程度でお願ひします。

公民館関係法令・解説

公民館長・公民館主事・公民館職員・公民館運営審議会委員・社会教育主事・社会教育委員・教育委員会関係者・公民館を利用する人・社会教育関係団体関係者等の必携の書として広く活用されています。

◎内容 教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規程・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。A 5判34ページ 1部300円(送料実費) ◎お申し込み先 〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 電話 0252(24)6073

公民館番頭日記

この一館四名の推進員の構成は、全市公民館共通の重目標である『生涯教育の振興』を、ま、少年、青年、成人、高生者という年代別代表によつて構成されているが、住民と公民館と結ぶパイプ役となる推進員が僅か四名というの少な過ぎ、もっと増員をという方が館長さん方の日頃の要請であった。そんな中で、ある地区館では、明には比較的意識的だが、教育委員会委員の四名のほか、地区館長や、学級、講座、種々の、いたすに他を責める団体等の代表を推進員に委嘱にとどまらなかつたのではないかと、これらの推進員を定期的

わざわいを 転じて福に... 『非常勤の館長と地区推進員』 『非常勤の館長と地区推進員』が各一名という現在の地区館の運営態勢は確かに問題点ではあるが、これを問題点としてのみとらえず、特性の持つ制約を意味とすることこそ大切なのではないか。』というのがこの地区館長さんの弁である。 この館長さんは『推進員と推進員会』の設置により、公民館の組織、態勢とあわせて地域の生涯教育態勢をととのえ、さらに地区内関係団体の活性化と「ミニミニ」づくりを推進したのである。

新潟県公民館連合会事務局 編集

## 果す公民館活動のあり方 (2)

燃焼し充実させるための学ぶつなりの場並びに事業の提供をしていく必要があるのではないかと思います。

大ざっぱにいうと人間には4つの本能があり、ひとつには自分の考えを人に伝えたい—表現本能、考えを形に表わしたい—創作本能、探求本能、そしてもうひとつは交わりの本能であり、友達や知っている人と一緒にいたい本能があります。

その逆は不安につながります。

そして、この4つの面から公民館の事業を組み立てていく必要があるのではないかと思います。

そうすると当然のことながら、公民館事業の多様化となります。

一般的に多様化というと種類になるが、ここでは種類だけではなく、内容・程度のひろがりの多様化を考える必要があります。

しかし、そうするとまとまりがないとか、マンネリ化するのではないかという反論もあるが、去年実施した事業も対象がどんどん変わるし、子どもの教育や健康問題など時代を超えて必要なものもあります。

マンネリ化は時代の変化並びに地域の変化並びに住民の要求や公民館が目ざす重点施策の変化と関係なしにただ事業として行っているものというのではないのでしょうか。

住民が公民館事業を通して自分の人生の方針や自分なりの生きがいを見つかったり、生活のしかた、人間観、人間像を自分で描いていく(モアレ効果)ものであり、これは与えられるものではありません。

公民館事業は、生活周期を中心としたプログラム、世代間の交流を通して文化が伝達されるプログラム、生涯を貫通するプログラムを軸にする必要があると思えます。

そして事業の収斂と拡散を考えます。

たとえば情報化社会では人々の孤立化を引き起すので、そういった時に世代や対象を問わず全地域の人々を対象に共通な課題を学び、これが事業の収斂であり、そのあとで対象別にたとえば青年であれば仲間づくりなどを拡散して取り上げていく。

もうひとつは住民が公民館活動の意義を十分に知っていてもなかなか励みが出てこない。

公民館事業で学んだことや身につけた技術を他人に認めてもらえる機会を用意する必要があるのではないだろうか。

お互いに認め合うことが参加を励まし継続させていくひとつの条件になるのではないかと思います。

公民館の歴史は長くさまざまなことが立案され、計画され、考え尽されてきたといわれるが、まだまだやはり考えてみる必要があるのではないかと思います。

**石井** 長い間県公民館連合会長を仰せつかっていましたが、この5月で辞めさせていただきます。皆さんのご協力はありがたかったがホッとしています。

教育に関してわからないのにピントのはずれたことを言うというような声を聞いたり、県の責任者であり、言動に責任があるのに公民館職員の皆さんの気のいらぬことまで言ったことがあったり、豊栄の市議会でも市長としてやるべきことがあるのに権限外のことをみているとの意見がありました。

行政は橋をかける、道路をつくる建物を建てるなど物理的な建設のように思われているが、大切なのは人づくりであり、人がよくならなければ、町はよくなると議会で論じました。

2年前文部省の文部時報という雑誌に公民館の立場で寺中

構想を見直すべきだと書きました。

公民館は文部次官通牒によって昭和21年に出発しています。

当時の社会教育課長は寺中作雄先生であり、昭和24年社会教育法ができて、公民館が法定される時の社会教育局長でした。

寺中先生は文部省の官僚ではなく、旧内務官僚(現在の自治省)の出身でした。

そこで寺中構想といわれた初期の公民館は単なる教育の範囲の中に捉えておらず、市町村全般にわたって公民館を捉えています。

県公民館月報にも通達による運営要綱を載せていただきましたが、教育の施設であり、学習が大率であると規定されていますが、学校教育とは異なります。

学校ではよき社会人となるためにあるいはよき家庭人になるために基礎的勉強をしているわけだが、社会教育では具体的に家庭や地域社会をどうすればよいのか地域の課題を捉えてやらなければならない。

初期の公民館は地域の課題を勉強するだけに停まらず、実践活動まで行った。

季節保育所の経営、公民館結婚、銭湯の経営など教育の範囲を逸脱しているものもあった。

しかし寺中構想では祖国の再建と郷土の復興の精神力になるのが公民館であると言っている。

館がなく看板だけの公民館や青空公民館といわれたが、あの時が本来の公民館の姿ではないだろうか。

これから村をよくしなければわれわれの自らの力によって幸せを仕立てなければと盛り上がり、館や専任の職員がいなくとも、あの中で住民が立ち上がったこれが公民館である。

その後、高度経済成長後、類似施設が出て、公民館の今まで実施してきたことが取られてしまって悲しい気になった。

公民館はレクリエーションや趣味の講座だけを実施するものとなってしまった。

そこで、公民館の見直しの時がきている。

市長の立場でいうと、昭和52年に地方自治法が制定されて30周年記念ということで、県主催で地方自治・30周年をふり返るというテーマの座談会をやった。

そこに出席した者が一応に言ったことは地方自治は予想以上に進歩・発展は遂げたが、住民の自治意識はどれだけ高まっただろうか。

これは政治家に責任がある。政治家は高度経済成長時代に「おれにまかせておけばいい地域をつかって住民を幸せにしてやる」といっており、それがある程度できた。しかし一方では住民の行政への依存が強く、自らが立ち上がって協力していい地域づくりをしようということがなかった。

昭和40年代半ごろから国民生活審議のなかからコミュニティづくりが提案され、文部省、農林省、労働省、総理府などでバラバラで取り上げられ、いろいろな施設が建設された。

そして、今それらを総合して連絡調整をはかることが必要であり、公民館をそのセンターとすべきである。

県の生涯教育推進会議も教育関係だけでなく、一般の市長部局まで網羅して取り組んでいる。

公民館としては昭和42年「公民館のあるべき姿と今日の示標」を策定したが、今見直しても基本において変わらない。第5次専門委員会の答申を得て昨年発表した「生涯教育時代に即応した公民館のあり方」のなかからそれぞれの公民館の実情に合ったあり方をさぐってほしい。(以下次号)

第36回新潟県公民館大会  
パネル討議のあらまし

## 生涯教育の基幹的役割を

高井 黒埼町では生涯教育学習推進事業に取り組んでいます。黒埼町は西蒲原郡の最北端に位置し、新潟市に隣接している人口21,000人の町です。

高速道路のインターチェンジもあり、年々町の様相が変化しています。町では昭和60年生涯教育学習推進事業を県から委嘱されました。それでまず事業の推進にあたり3つの会議を設置しました。その1つが社会教育委員、社会教育関係団体代表者、学識経験者ら16名で構成されている地域活性化学習促進会議です。

行政側からは公民館長1名のみでの参加であり、全く自主的な運営をしています。

そこでは生涯教育学習推進達成の組織化に関する調査・研究、情報提供相談事業のシステム化に関する調査・研究、学習意欲の啓発化に関する調査・研究、関係機関の連携に関する調査・研究、事業の見直し一企画・立案に関する調査・研究、人的体制・社会教育施設に関する調査・研究です。

会議は2ヶ月に1回の割合で開催されます。

2つ目は生涯教育推進委員の会議です。

地域における生涯教育推進には委員の力が大きく発揮されます。公民館関係者が20名、社会教育体育関係者10名を委嘱し、地域における生涯教育学習への啓発を担当していただきとくに地区住民への働きかけや相談を受けてもらっています。

学習情報の提供、データファイルの管理と利用の促進、地域活動に関する調査、学習等に関する相談を受けること、学習希望者の組織化をはかることなどを推進委員ひとりひとりにそれぞれの地域で取り組んでいただき、月1回会議を開催しています。

一方行政側では各関係課職員調整会議を開き、各関係課が連携して事業を実施することを目的としています。

具体的には学習催し物に関する情報の提供、各関係課もっている情報を公民館にもらう、各関係課の行う事業の一覧表に作成し、わかりやすく住民に広報したり、共催事業の実施などです。

次に学習情報提供事業ですが、これがモデル事業の中心です。

データバンクの設置により情報の収集・整理を行うとともに各家庭に情報を流すことが目的です。

情報については町に關係する情報とそれ以外の2つに分けます。

町で実施する学級・講座・講習の情報、団体・サークル活動内容及び加入方法の情報、社会教育施設の利用方法に関する情報、その他学習資料に関する情報です。

これらの情報は町及び関係団体・サークルに依頼をして得た情報を種類別に整理しました。

町以外の情報では隣接している新潟市で行われる企業やカルチャーセンター、各種専門学校などで行う学習に関する講座の情報を種類、内容、受講方法別に分類し、データファイルにしておきます。

またその他学習資料及び催し物に関する情報も整理しておきます。

次にそれでは、その情報をどのように家庭に情報を流すかですが町には中央館が1つ、地区館が8つ、分館10館で19館あります。

それらの公民館にデータバンクの一部の資料をデータファイルに入れて各地区で活用できる情報は各地区の公民館長及び生涯教育推進委員の皆さんにお願いをして地区民への提供を行っています。

社会教育事業を載せたカレンダーの作成や機関紙の発行、広報紙(月2回)を活用して広報しています。

その他電話による相談や学習相談を受けています。

また、地域活性化学習事業はモデル的に北部地区公民館を指定し、図書館、保育所、福祉課が協力して実施しています。

その他似通った事業を一本化し「くらしの健康教室」を実施しています。

前田 これまで公民館だよりなどの社会教育の機関紙を通して考えを申し上げてきましたが、それらを踏まえてお話しします。

最近どうして公民館事業がふるわないのだろうかということが話題になりますが、もちろん主婦を例にあげれば、家庭生活は余裕が出てきたが、生活全般からみると必ずしもゆとりがないということも公民館事業への参加不振の原因に考えられます。

もうひとつは学習の機会が公民館以外のさまざまな機会を通して手に入れることができます。

大学開放講座・企業のサービスなどがあげられます。

先ほどの本間さんのお話ではカルチャーセンターの経営は難しくなかなかならぬと思うようでお聞きしましたが、お金がないからできないとか無料だからなんでもいいということではなく、選択は個人の自由だが、公民館は学習の機会を提供するという公教育の責任を果たすために知恵を絞らなければならないと思います。

非常に大きな教育のうねりからいうならば20世紀は学校教育中心でありましたが、21世紀は社会教育・公民館が教育の大きな責任を負わなければなりません。そのうねりの先取りをしながら、公民館の事業を考えていなければなりません。

生涯教育との兼ね合いのなかで事業の立案・計画していかなければなりません。

極端に生涯教育を公民館が中心に進めることは公の教育としては統制的にしすぎるのではないかという批判もあるし、やり方によってはそうなるかもしれませんが、しかし多くの定義があるとしても生涯教育が必要になればなるほどやはり当然のことながら、公民館の責任範囲及び分担が大きくなります。

キザっぽくいうならば、人間は生きるということよりもよりよく生きるということがはじまりつつある。

人間は人生における各期で燃焼し続け、充実し続けるように心がけ、だれでもがそう願います。民主主義の大定義を少し引用するならば、すべての人が「私は私のためによって生きていく」という実感を感じたいと。

実際には、大人も子どもも燃焼し、充実して生きていくかという決断はそうではなく、逃げ腰で一般の大きなうねりに流されて、おまかせ主義の傾向が強いです。

つまり人生のそれぞれの時期に逃げない、まかせない人生を組み立てていくという人生を送るための援助が公として必要。

燃焼し、充実する生活から離れる社会の傾向と心の揺れがあります。

# 実践記録シリーズ

(3)

公民館活動実践記録シリーズを復活  
しました。活動の苦心談・成功例な  
どご送稿ください。

## 長岡市中央公民館



### IYY地球人セミナー 青年サークルが国際交流の場

第1回(4/18) ベネズエラから長岡技科大に留学中のマヌエル・プリト、マリア・プリト夫妻をゲストに幕開け。会場は超満員でうれしい悲鳴。TV局の取材もありWING張り切る。

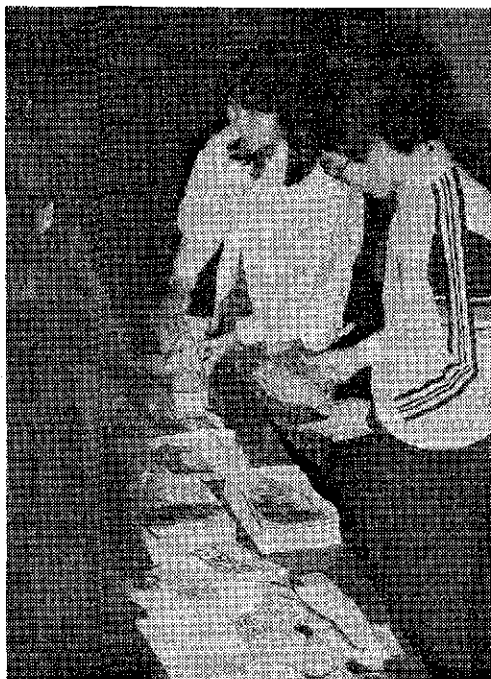
受講者前列右は、田中中央公民館長

△地球人セミナーを終えて▽  
サークルWING代表大塚雅博  
▼セミナーのはじめ  
国際青年にちなみ、中央公民館から「何かセミナーをやってみたいか」と話があったのは一月の

長岡市中央公民館で活動することになった。そのとき、私たち青年サークル「WING」が、公民館の中央青年教室(中央公民館新主館)を借りて国際交流の講座「IYY地球人セミナー」を企画した。WINGが企画、公民館がスポンサーの形で進行し、青年を中心に高校生や主婦、サラリーマンを含む多数の参加者を獲得した。以下はWING代表大塚君の手記。

公民館が活動することになった。そのとき、私たち青年サークル「WING」が、公民館の中央青年教室(中央公民館新主館)を借りて国際交流の講座「IYY地球人セミナー」を企画した。WINGが企画、公民館がスポンサーの形で進行し、青年を中心に高校生や主婦、サラリーマンを含む多数の参加者を獲得した。以下はWING代表大塚君の手記。

とまりがないという現状であった。そのときにこのセミナーの話を聞き、WINGの活動テーマにピッタリで、サークル活性化にまたとないチャンスであると思い、サークルをあげて、企画・運営のボランティアにとびついたのだ。その後のWINGの勢いは水を涵た魚の如しであった。会員の知人などより、県内在住の外国人、海外体験者二人をゲストとして選定し、ディスカッション二人、海外体験者二人をゲストとして選定し、ディスカッション二人をまとめて一貫性のある企画を打ち出した。また、手書きのポスターを作り、市内各地に掲示したり、チラシの配布を行った。そして、市政だよりへの掲載や新聞社に取材を受け、毎週のように具体的な活動内容が、まに集まりの主体的な運営を進めてい



第4回ディスカッションで、受講生にお茶菓子をサービスしようと準備するWINGの左から小野君、遠藤さん、大塚君。

▼セミナーの内容  
まず第一回は、ベネズエラ出身の長岡技術科学大学の留学生、マヌエル・プリト夫妻をお招きし、三歳になる娘さんもお交々なごやかなムードで展開し、祖國の歴史や風俗、文化、習慣等や日本の印紋を惜れない日本語と兼読苦闘しながら一生懸命話して頂い。そしてプリト氏の力強いパワーと日本人に心を開くのが数人のハートを掴んだ。TV局の取材も受けて順調なスタートを切る。  
第二回は、青年海外協力隊全国OB会副会長の羽吹登さんをお招きした。多岐なパネルや、16ミリ映画を通して、北アフリカ・モロッコでの人間感あふれる生活体験



第5回(5/23)大和町在住の翻訳家ジョン・ファルコナーさんと奥さんのエリザベスさん(中央)と、セミナー終了後WINGとセミナー参加者が交歓。(市内の喫茶店で)右上スミのメガネの青年が代表の大蔵君です

を聞き、「奉仕した。は人生の貧乏なり」の言葉通りの、ボラ活動のすばらしさを教えて頂いた。

このセミナーでは、WINGや受講生同志の意思の疎通に重きが置かれた。そこで、毎回心をこまにやるゲームを取り入れたり、講義を終った後、講師の方と一緒に、喫茶店に移り、一層の親睦を深めたいと、毎回アンケートを記入してもらい、その日の感想や一人一人の問題意識などを整理した。そこで第四回は、受講生の主体的な話し合いに重点を置いた。海外生活に向

第五回は、アメリカ・オレゴン州より在日中の翻訳家、ジョン・ファルコナー夫妻をお招きした。スライドを使ってアメリカの自然文化、習慣等を紹介してもらい、日本の印象、さらには、地球人を日指すには何が必要であるかを、持ち前のユーモアをふんだんに折混ぜて語って頂いた。

第六回は締め括りとして、このセミナーを受講しての感想や、これからの自分達の生き方について幅広いディスカッションを行なった。そして、「今、あなたは何地球人を目指す最初のベースキャンプに到着しました」という修了証書を受講者に手渡し、今後も一人一人がそれぞれの立場でより良い地球人をめざすことを確認し、セミナーを終りを盛大に飾った。

セミナー終了後、文集の発行や親睦会が行なわれ、今もなお、年令や職場を越えての交流が続いている。そして、いつの間にか我々WINGも一人一人が個性に輝き、長閑に誇るまじりあるサークルに変遷し、21世紀に向けて翔んでいる。

「参加・開発・平和」をテーマにする国際青年。その持つ目的は限りなく深い。しかし、まずは一人一人がこのような地域活動に参加する、これがIYYへの第一歩ではないかと思う。そして、今後IYYを契機に、



### 区民ハイキングに想う

糸魚川市浦本公民館長 福島光三

最近の世相には、薬業の技術革新に伴う労働時間の短縮、所得水準の向上等々にながった生活構造の変化が見られます。この結果、精神的充実を求め、レクリエーションや趣味的活動に関心が高まって来ておられます。この時代の

これを通して親子のふれあひ、多勢の参加によるミニミニハイキング、そして貴重な体験により公民館活動の理解、ひいては各事業、学級等の参加の起原として大いに役割を果たしてあります。また実施計画を作ることあた

でも、体育部を主体として役員全員が協力し、ユースの下見、所要時間、経費の算出、任務分担等自主性を持たせた運営でそれぞれ責任を果たしてもらうのが望ましいです。この作業によって公

で百名におよぶ参加となりました。礼所は、檜、杉の森林地帯で、道は賑々とした岩山で約十八百メートルの二時間近い行程です。その難所を親子を背負い、若者が老人の手を引き、兄弟の背を押して難所を通過する姿は、学校や家庭生活では味わえない体験であったと思えます。

このようなハイキングが団体行動の規律、助けあふことの大切さを学び、また気分転換によって明日への活力を生じ、「自分もレクリエーション」への関心が移行して、これからの公民館活動に遠くで参加するようになるを信じてました。

※時間は夜間  
①4/18(木)ベネズエラから今日  
は、控大に留学中の若いカップル、フリト夫妻(ベネズエラ)  
②4/25(木)アフリカ体験記(青年海外協力隊OB羽吹登さん)  
③5/9(木)ネパールを語る(登山家・内海正義さん)六日町在住

